

[講演要旨]

1945年1月13日三河地震の認知度と教育への展開

～学校教育における歴史災害意識調査からの考察～

中井春香*(ナカシャクリエイテブ株式会社)・阪本真由美(兵庫県立大学減災復興政策学科)

§1. はじめに

2022年の高等学校学習指導要領改訂に伴い「地理総合」の履修が必須となる。そのなかで、地域の災害史に目を向けることは重要である。そこで、本論では、学校教育における歴史災害に関する意識調査を通し、防災教育の現状と課題を把握し、今後学校教育においてどのように歴史災害教育を取り入れるのかを検討する。

§2. 愛知県における歴史災害

今回調査を実施した愛知県では、過去に地震や台風、豪雨などが発生している。直近の被害が大きかった地震は、直下型地震の1945年三河地震であり、その約1か月前には東南海地震が発生している。また、1959年伊勢湾台風でも海拔0m地帯などで甚大な被害を受け、今年発生から60年の節目を迎えている。洪水被害では、2000年の東海豪雨などがある。

本研究では、学校教育において歴史災害がどの程度教えられているのかを把握するために、愛知県内の高校生、高校教員を対象に質問票に基づく実施した。高校生については、愛知県と名古屋大学の連携による高校生防災セミナー参加者に、また教員については、愛知県教員研修(高等学校2年目、特別支援学校)の参加者を対象に実施した調査による。回答者数は高校生59名、教員354名である。以下調査結果の概要を整理する。

§3. 歴史災害教育の課題

高校生に対する質問票に基づく調査の結果を図1に示す。学校で学んだことがある災害では、東日本大震災、阪神・淡路大震災、関東大震災などの「大震災」とつく震災が並んでいる。その次に、伊勢湾台風や東海豪雨となり、水害についても学んでいる。一方、濃尾地震、東南海地震、三河地震については一部の地域を除き、学校で学んでいないことが示された。

図2に、教員に対して実施した調査結果を示す。愛知県内で被害が発生した歴史災害に対する認知度が低く、三河地震を「知らない」と回答した教員が54%に上った。濃尾地震、東南海地震も類似の傾向であった。一方で、伊勢湾台風で「知らない」と回答した教員は5%、阪神淡路大震災は0%となり、多くの教員が知っていた。また、授業において教えたことがあるという回答者数は39名(9%)であり、教える教員自身が歴史災害を知らないことが分かった。そのことが、地

域の災害を、知っている高校生が少ないことに影響していると考えられる。

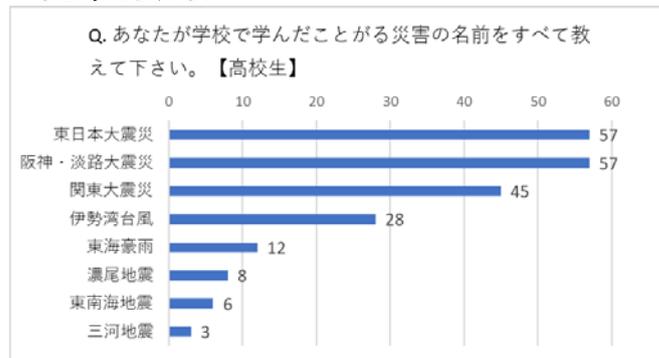


図1 高校生が学校で学んだことがある災害(n=59)

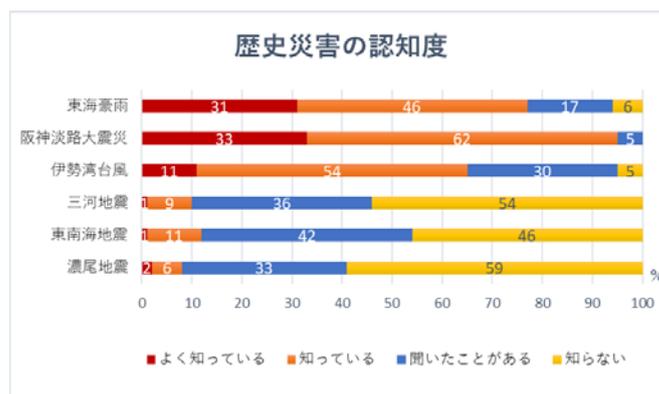


図2 教員における歴史災害の認知度(n=354)

§4. 考察とまとめ

歴史地震のなかでも三河地震は、愛知県内で発生した地震であり、防災教育の教材としても重要である。地域で発生した歴史上の災害について、防災教育の一環として学校教育や教員研修に加えていく必要がある。そのために、どのように学校教材に歴史地震を入れていくことが有効なのかを今後の研究課題とする。